

家族の集まるLDKに愛犬が心地良く過ごせる専用のスペースを設けてあげると、愛犬も寂しい思いをせず、飼い主にとっても様子を常にうかがうことができ安心ですね。愛犬も気兼ねや遠慮をすることなく、くつろげる場所があると、ストレスから解放され、落ち着いて生活することができます。

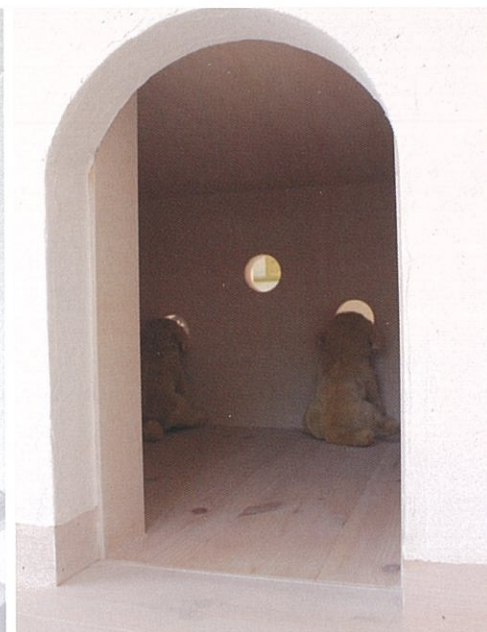
ドッグスペースは、人間の部屋のような天井高は必要ありません。階段下やスキップフロアになった床下を利用したり、上を収納に利用するなど、スペースを有効活用することを考えてみるのもいいですね。

狭いスペースに愛犬を入れておくのは可哀想な気もしますが、もともと犬の祖先は洞穴を住処にしていたため、狭く囲まれた洞

穴のような場所のほうが本能的に落ち着き、安心できるともいわれています。

ドッグスペースは、壁や家具の一部に凹みをつけて洞穴のようにしたり（入り口に柵やゲートを付ければケージとして活用でき、愛犬の行動をコントロールできます）、部屋の一角を柵などで囲ったり、専用の部屋を設けるなど、さまざま考えられます。

床や壁は、キズや汚れに強く、掃除のしやすいものを。消臭機能のある建材や機器を採用するなど、ニオイ対策も忘れずに。設置する場所は、直射日光や冷気による急激な温度変化が起こらないところに。また、外の大きな音やニオイはストレスになることもあるので注意したいものです。



Dog Space

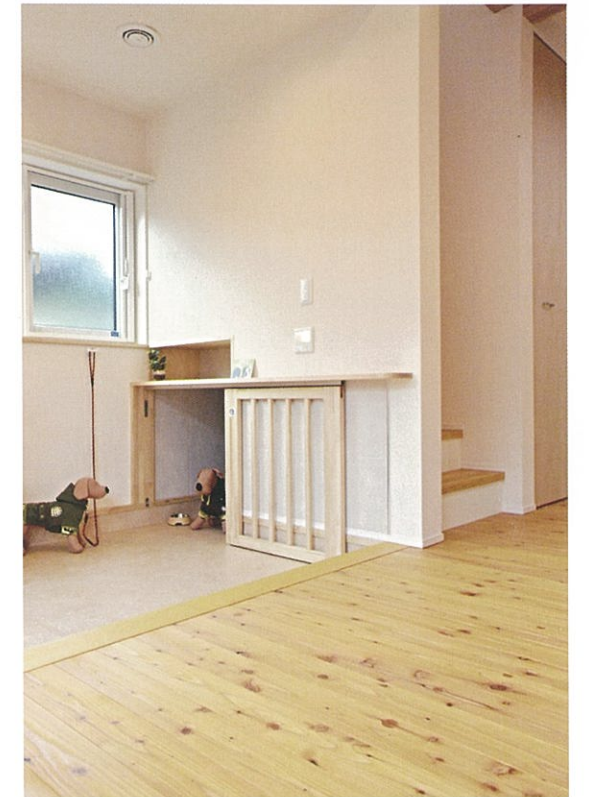
階段下にドッグスペース。入口はLDKの隣の主寝室、LDK側には壁に3つの小窓がつけられていて、足跡や骨の飾りのついた木の扉つきです。階段の踏み面も扉になっていて、ドッグスペースを覗くことができたり、収納スペースとして利用できるようになっています。
愛犬家住宅コーディネーター 山内 健（認定番号：15081862）



Dog Space



柴犬母娘が暮らす二世帯住宅N&K邸。収納下をケージにもなるドッグスペースに。床は重歩行用ビニル系シート、壁は汚れに強いメラミン系パネル、天井は湿度を調整して空気をキレイにする機能のある建材、気になるニオイを抑制する天井埋込型ナノイー発生機も装備。他の部屋に音が漏れにくいように、壁内に遮音材も充填してあります。
設計/愛犬家住宅コーディネーター 西沢 雄嗣（認定番号：11040458）



K邸のリビングの一角、床を約15cm下げてドッグスペースに。床を下げることで抜け毛などがリビングに入ることを防止。床は防水仕上げになっているので、粗相をしても水で洗い流すことができます。また、天井埋込型ナノイー発生機（カビ菌やウイルス、ニオイ、アレル物質などを抑制）を設置してあるので、ニオイも気になりません。また、階段下を利用してドッグケージも設置。壁は手入れのしやすいキッチンパネルと調湿消臭機能のある壁材、天井も調湿消臭機能のある建材、さらに壁内はセルローズファイバーを充填して吸音性ももたせています。
設計/愛犬家住宅コーディネーター 西沢 雄嗣（認定番号：11040458）

柴犬母娘が暮らす二世帯住宅N&K邸。家事カウンターの下をケージにもなるドッグスペースに。床は重歩行用ビニル系シート、壁は汚れに強いメラミン系パネル、天井は湿度を調整して空気をキレイにする機能のある建材、ニオイ対策として天井埋込型ナノイー発生機も装備。
設計/愛犬家住宅コーディネーター 西沢 雄嗣（認定番号：11040458）